



■被災地出張授業……2014年 12月19日

働くということ

—社会人として大切なこと—



講師：小枝 至 元副代表幹事（日産自動車 相談役名誉会長）

2014年12月19日、IPPO IPPO NIPPON プロジェクトによる被災地出張授業を、岩手県立大船渡東高等学校で行った。今回は、小枝至元副代表幹事が講師を務め、3年生173人を前に、働くことの意味について、また社会人として求められることについて語った。

自分の役割を果たすことで 社会は成り立っている

皆さんは高校生活三年間で、さまざまなことに悩み、考えてきたと思います。今は卒業を前に仕事や働くことに対する不安があると思いますが、それは当然です。しかし、不安は人に相談すると、解消できるものです。先生や両親、友人など、多くの人の意見を聞くようにしてください。そして、最終的に自分で決断することが大切です。

そもそも働くとは、いったいどういうことでしょうか。仕事には、家事や育児、ボランティアなどの無償の仕事と、給料をもらう有償の仕事の二種類があります。どちらも非常に重要なもので、どちらが欠けても社会は成り立ちません。どのよ

うな仕事も、良いことばかりではなく、辛いことや嫌なことが付きものです。しかし、一見、単調で退屈に思える仕事でも、方法や道具を改善するだけで、作業効率が格段に向上することがあります。仕事は、自分の気持ちや働き次第でやりがいを感じることができます。それぞれがしっかりと自分の役割を果たすことで、社会は成り立っているのです。

日本の強みを知り 世界を相手に働く

仕事をする上で大切なのが、日本の強みを理解することです。経済活動は国境を越えて動きます。そのような中で自国の強みを理解することに大きな意味があるからです。

まず日本は、技術力・開発力に優れています。また、社会には規範があり、凶悪な犯罪も他国より少なく、時間にも正確で、交通機関の乱れもさほどありません。社会階級がなく、チームワークが良く、労使関係も健全です。財政赤字などがニュースになりますが、世界レベルで見れば経済力は高いといえます。

さらに、水資源や森林資源が豊かで、第一次産業も非常に高度です。他国に比べ、農地が大量の農薬に侵されることもありません。農業技術も高く、水産業の漁獲高は減少しているものの、養殖技術は世界最高水準です。

この豊かな国土、水資源を活用すれば、日本の第一次産業はもっと活性化し、世界に負けない強い競争力を持つはずですが、そのためには法整備やさまざまな社会整備が必要であるとともに、人々の意識を変えることで、若い従事者を増やす必要があるでしょう。例えば、工業技術をもっと活用し、誰もが働きやすく、高い収入を得られるような根本的な構造改革も必要となるでしょう。

一方、今後の日本の課題としては、少子・高齢化による労働力不足が挙げられます。そのため、女性の能力を今以上に活用しなくてはならず、国の制度や社会環境づくりが進められています。加えて、人々の考え方を変えることが大切です。それは、長時間労働を改善し、夫婦で家事や育児を分担する意識を高めることです。

自らの場で懸命に尽くす 「一隅を照らす」存在であれ

最後に、社会に出る前に、やるべきことを話します。まず、日本人としての基本を身に付けることです。特に、時間と



約束は絶対に守ってください。そして、故郷や日本の歴史・文化をよく学んでおくといえましょう。社会に出て、いろいろな場所に行くと、自分の故郷について話す機会が増えるものです。人に故郷を語れるだけの知識を身に付けてください。

社会に出たあとも努力は必要ですが、

無理をしてはいけません。努力と無理は違います。失敗して落ち込んだら、寝てください。寝たら朝が来る。一日たてば、意外と立ち直れるものです。

そして、仕事を通じ、自分の夢を実現するために、「一隅を照らす」存在になってください。「一隅を照らす、これ即ち国

の宝なり」という最澄の言葉は、目立つ場所だけでなく自らの居る場所で精いっぱい努力し、目いっぱい輝く、そのような人は国の宝だ、という意味の言葉です。皆さん一人ひとりが、自分の場所で努力し輝くことで社会を担う、素晴らしい日本の宝となってほしいと思います。

生徒との質疑応答

Q 電子機械科の授業で燃料電池車について学びました。燃料電池車は今後どれくらいで普及しますか。

A 実はまだはっきりとしない状況です。というのも、水素の供給スタンドを建てるのに2億円から3億円かかる試算があり、また、ガソリンに比べると水素の値段がかなり高価なので、今の段階ではビジネスとして成り立たないからです。そのため、法的整備を図るとともに、さらなる技術開発を進めるために、日本全体で改善チームを作って問題解決に当たっています。

Q 女性が活躍するには、人々の考え方を変える必要があると言われてきましたが、具体的な方法はありますか。

A 社会では、女性の管理職やリーダーをもっと増やさない、という声が高まっています。女性が活躍できる場はたくさんあるはずですし、自社での調査からも、どの仕事でも、男女でほとんど能力差がないという結果が出ています。しかし現実には、子どもを産むなど、女性にしかなできないこともあり、仕事を離れなければならない時期があります。それを補うには、男性も早く家に帰って、家事や育児を分担すればよいのです。

そのため、日産自動車では、現在四つ

の部署で、在宅勤務を試行しています。部長を含め、全員が毎月、何回か在宅勤務をしていますが、意外に効率が良いようです。男性と女性、お互いの違いを認め合いながら平等に協力して努力する、誰か一人が無理をしないようにするといったことが大切でしょう。



生徒の感想

● 日常的過ぎて、あまり気が付かなかった「日本の強み」を知ることができました。来年は漁業協同組合に就職します。学んだことを活かして、地域の振興のために尽くし、いろいろな人のためになれるよう努力します。

● 日本の産業はとても発達しているが、従業員の高齢化が進み、若者が足りないという問題に直面していると分かりました。私の家は養殖漁業をしていましたが、祖父母が高齢になって、やめてしまいました。私は、将来の夢のために地元を離れて進学しますが、将来、祖父母に教えてもらいながら、父と漁業をしたいです。漁業だけでなく、地元の産業にかかわって地元を支えていきたいと思っています。

● 来年から社会人になりますが、働くことにとっても不安がありました。悩むこともたくさんあると思いますが、怒られて伸びることもあるので、「辛い」と思うのではなく、プラスに考えていきたいです。将来、自分の能力が向上し、先輩に一人前と認められれば、今現在の悩みもささやかなものに思えるでしょう。これから頑張ろう、と決心できました。

● 働くということについて、具体的に思い描けないのが、

正直なところでは、職場でうまくやっていると不安もあります。どんなときも将来に希望を持ち「一隅を照らす」という言葉を忘れず、自分のやるべきことを精いっぱい努力していければと思います。

● 今はまだ、女性が働きにくい環境だと思います。日産自動車では、男女平等に仕事ができる環境を整備していて、すごいと思います。それぞれの人がお互いの意見を尊重しつつ、譲り合いの精神で協力できれば良いものが作れると知りました。

● 震災で被災し、家も壊れて大変な思いをしましたが、今は普通に通学し、普通に家でご飯を食べて暖かい布団で寝ることができます。そのことが幸せだなんて思ったこともなく、当たり前だと思っていましたが、他の国では当たり前でないことを、今日初めて知りました。階級や差別のない国は日本以外にない。ほかにも日本の強い所がたくさんあると分かりました。

● 今日の講演で印象に残った言葉は、「努力と無理は違う」ということです。私は、うまくできないことがあると、一日中ずっと考え込んでその日のうちにやろうとし、結局、空回りしてしまうことがあります。それは努力ではなく、本当は無理をしていたのかもしれないと、気付くきっかけになりました。